

## インフラマネジメント基本計画の改定及び市民意見募集について

インフラの安全性を維持し、計画的かつ効果的な保全を図るため、平成 28 年に『公共施設マネジメント基本計画(社会インフラ版)』を策定し、対策を進めてきた。

近年の社会情勢の変化やインフラ老朽化への対応、また市民の安全安心を守り、将来にわたり持続可能な管理を行うため、基本計画を改定するもの。

### 1 計画策定の経緯

インフラの老朽化対策については、筐子トンネル天井板崩落事故を契機に、総務省より長寿命化に向けた計画づくりの指針が示されており、各自治体はこれに沿った維持管理計画を策定し、対策を進めている。

北九州市では、概ね5年を目途に本計画の見直しを実施しており、令和4年の第1回改定を経て、今回名称を『インフラマネジメント基本計画』に改め、2回目の改定を行う。

### 2 これまでの取組みと課題

本計画に基づき、メンテナンスサイクルの確立や新技術の導入等により、安定的にインフラを維持してきた。一方、建設後 50 年以上経過する施設が今後急増することや資材高騰、担い手不足など、維持管理の環境は厳しさを増している。

### 3 改定の主なポイント(ストックの『保全』と『活用』)

将来にわたり、インフラの安全確保と魅力あるまちづくりの両立に向け、インフラの「保全」と「活用」の両輪で推進する。

今回の改定では、以下の6点を重要視点に位置づけ、複数の手法を組み合わせ、高度化・効率化を推進することにより、持続可能なインフラの保全を図る。

- ①施設特性(優先順位)に応じた予防保全型管理への計画的な移行
- ②AI やドローンなど新技術の更なる活用(DX推進)
- ③連携の強化(広域連携、多分野連携など)による管理体制の高度化と効率化
- ④利用実態や重要度に応じた点検・補修、管理水準の見直し
- ⑤民間活力導入により「ストックの最大活用」、稼ぐ・彩る・安らぐの実現
- ⑥更新時期や地域実情を踏まえ、可能な箇所から集約・再編など最適化

### 4 今後のスケジュール

|              |                        |
|--------------|------------------------|
| 令和8年8月6日     | 都市戦略整備委員会報告            |
| 同年9月中旬～10月中旬 | 市民意見募集(パブリックコメント)      |
| 同年11月        | 市民意見を踏まえた最終案を委員会報告     |
| 同年12月        | インフラマネジメント基本計画改定       |
|              | 各管理施設ごとの個別施設計画に改定方針を反映 |

# インフラマネジメント基本計画の改定について

## 【計画改定について】

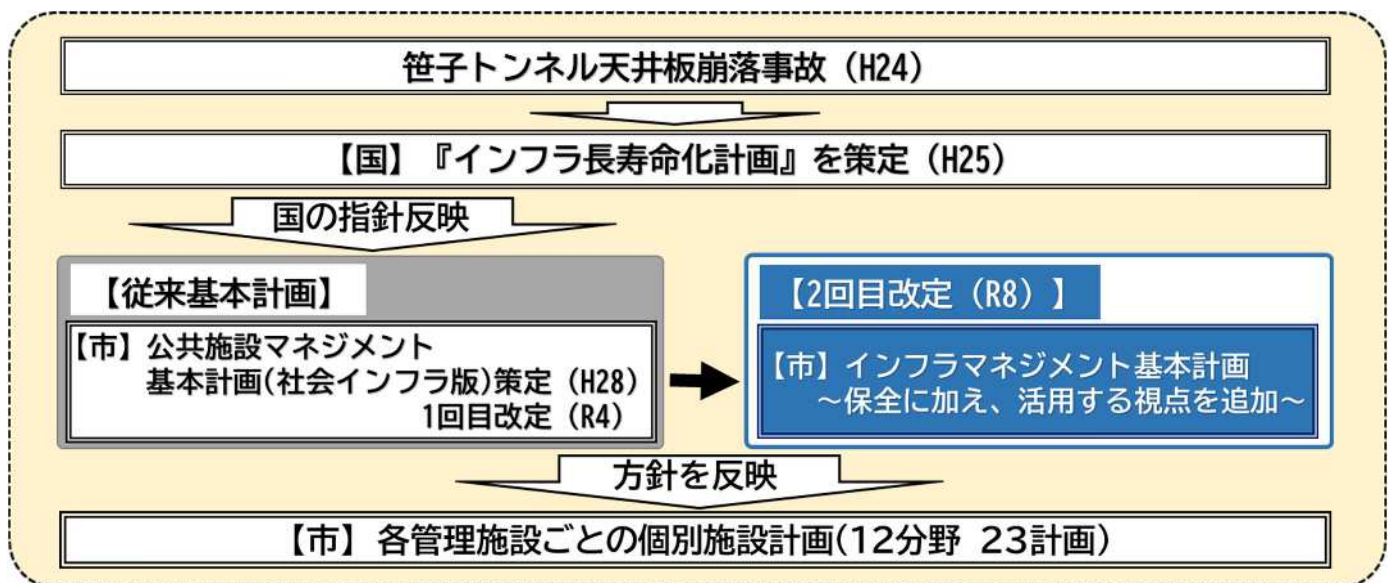
インフラ老朽化への対応、また市民の安全安心を守り、将来にわたり持続可能な管理を行うため、基本計画※を改定する。

将来の長寿命化・安全確保と魅力あるまちづくりの両立に向け、インフラの『保全』と『活用』を両輪とした改定内容をインフラマネジメント基本計画に反映させる。

※総務省の指針に基づき、計画期間40年(概ね5年ごとに見直し)【H28年策定⇒R4年改定⇒R8年改定(予定)】

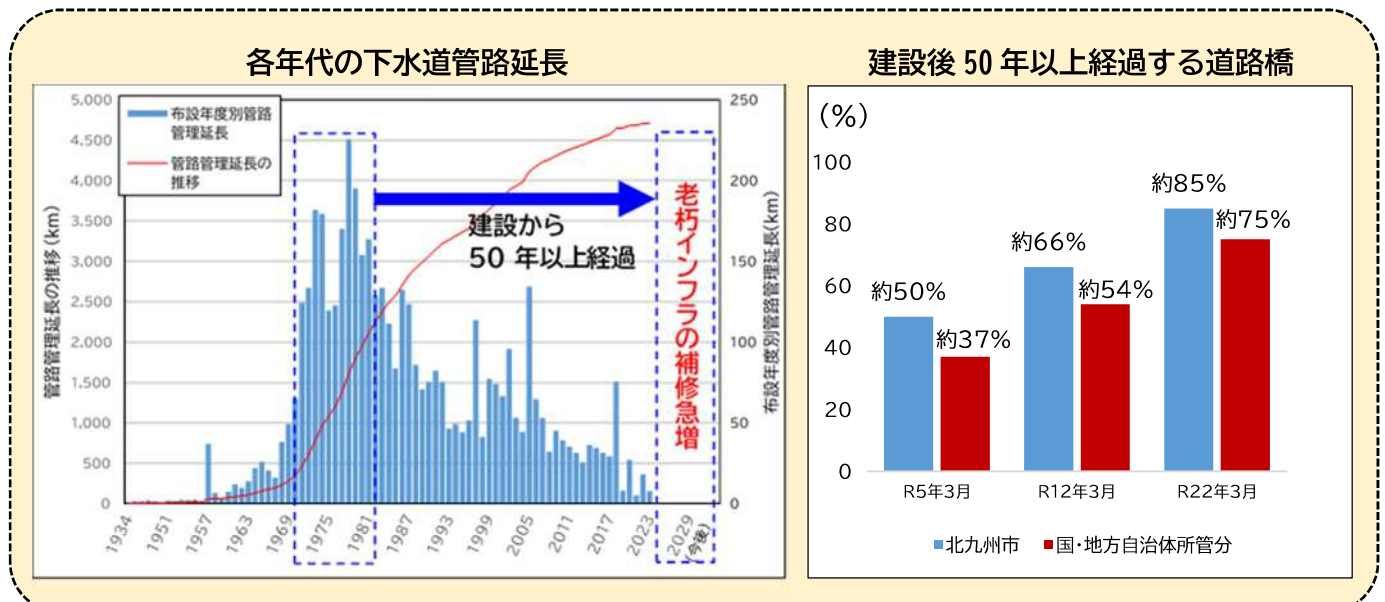
## 【計画策定の経緯】

・平成 28 年基本計画策定。その後、社会情勢の変化に対応するため改定を実施。



## 【対象施設と現状】

・建設後、50 年経過している施設が、今後さらに増加。



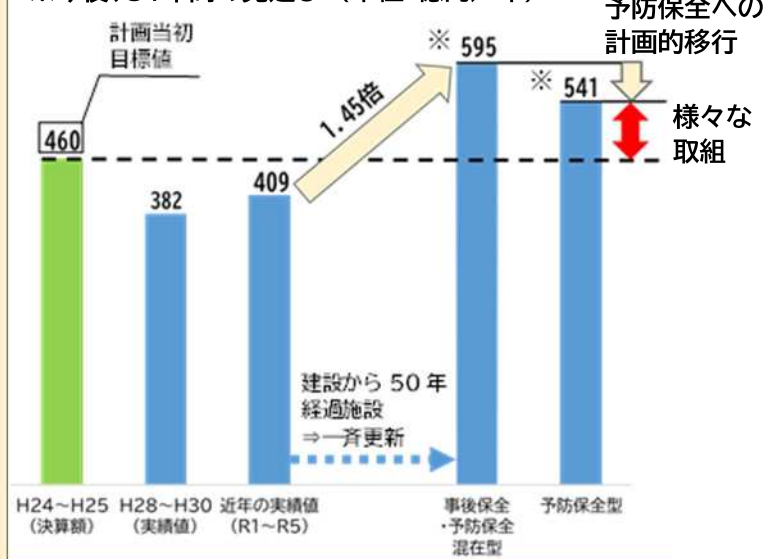
## 【維持管理費の実績値・将来見込み】

- ・建設から50年が経過した施設の増加に伴い経費は増大が見込まれる。

## 【老朽化による事故】

- ・過去に発生したインフラの損傷。

※今後、31年間の見通し（単位：億円／年）



維持管理経費の実績値と将来の見込み



下水道管破損による陥没



水道管の破損



歩道橋化粧板の落下



カーブミラーの倒壊

## 【課題と取組方針(重要視点)】

- ・社会情勢の変化に伴う諸課題に対し、これまでの「インフラを維持する」だけではなく、「安全確保」と「魅力あるまちづくり」の両立を図り、ポテンシャルの最大活用へと視点を転換。

### 取り組むべき課題

- ◆ 老朽化施設のさらなる増加
- ◆ 人件費・資材費の高騰
- ◆ 財政状況の厳しさ
- ◆ 激甚化・頻発化する自然災害
- ◆ メンテナンス人材の不足
- ◆ 維持管理技術の進化へ対応

### 取組方針「重要視点」

- ◆ 施設特性(優先順位)に応じた予防保全型管理への計画的な移行
- ◆ AI やドローンなど新技術の更なる活用 (DX推進)
- ◆ 連携の強化(広域連携、多分野連携など)による管理体制の高度化と効率化
- ◆ 利用実態や重要度に応じた点検・補修、管理水準の見直し
- ◆ 民間活力導入によりストックの最大活用 稼ぐ・彩る・安らぐの実現
- ◆ 更新時期や地域実情を踏まえ、可能な箇所から集約・再編など最適化

## 【具体的な取組例】

- ・AI や衛星データを活用した管理の高度化、民間活力導入による、魅力ある公共空間創出など多角的な施策を展開。

### 新技術の活用

#### 「道路反射鏡A I 健全度診断」による業務効率化

##### 道路施設維持管理の課題

点検に多大な時間・労力・費用  
対象の施設数が非常に多く、点検作業、  
調査作成等の実務や費用の負担が課題



客観的な評価が困難  
判定基準はあるが、点検者の主観が  
入りやすくバラつきがある



##### 解決策

##### 点検作業の効率化

A I を点検に用いることで、点検作業  
の効率化及び費用の削減

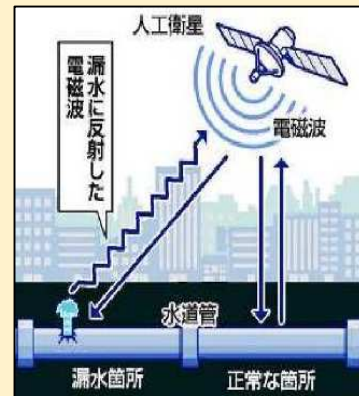


##### 客観的な評価が可能

A I による、主観が入らずバラつき  
のない判定が可能



#### 人工衛星を活用した 漏水箇所判定



### 民間活力導入『ストック最大活用』

#### 公園にカフェや休憩施設を設置し利便性を向上

民間事業者  
⇒公園空間を  
一体的整備



出典:国土交通省 Park-PFI 等の活用

#### 道路空間を活用したまちの賑わいづくり



曜日や時間帯に応じて道路空間の使い方が変わる路側マネジメント

出典:国土交通省 歩行者利便増進道路(ほこみち)制度の詳細説明

## 【個別施設計画の対象施設】

- ・インフラマネジメント基本計画の方針を、各施設の個別施設計画に反映し推進。

| 分 類       |          | 対 象 施 設                                          |
|-----------|----------|--------------------------------------------------|
| 【1】道路     |          | 「舗装」、「橋梁」、「トンネル」、「門型標識」、「横断歩道橋」、「大型カルバート」、「昇降施設」 |
| 【2】モノレール  |          | 「モノレール施設」                                        |
| 水道        | 【3】水道管   | 「管路施設、浄水場・取水場、ポンプ場、配水池」                          |
|           | 【4】プラント  |                                                  |
| 下水道       | 【5】下水道管渠 | 「下水道管渠、処理場、ポンプ場」                                 |
|           | 【6】プラント  |                                                  |
| 【7】公園     |          | 「公園施設」                                           |
| 【8】河川     |          | 「護岸」、「流域貯留施設」、「水門」、「地下調節池」                       |
| 【9】環境プラント |          | 「焼却工場、各資源化センター、し尿施設」                             |
| 【10】港湾    |          | 「係留施設、外郭施設・廃棄物埋立護岸、臨港交通施設、その他港湾施設」、「海岸保全施設」      |
| 【11】農林    |          | 「農業施設(水門)」、「林道(橋)」                               |
| 【12】漁港    |          | 「漁港基本施設」、「漁港環境施設等」、「海岸保全施設」                      |

「 」内の施設は、同一の個別施設計画